

第2回稚内市廃棄物減量等推進審議会開催結果（議事録）

1. 日 時

平成26年7月22日（火） 14：00～16：00

2. 場 所

稚内市役所4階 第一委員会室

3. 会議の概要

(1) ・計画の策定にあたって

- ・ごみ処理の現状
- ・計画の基本的方向

(2) 開 会

◎富田会長から挨拶

(3) 廃棄物処理基本計画書（素案）について事務局より説明を行った。

以下に、質疑応答に関する発言を記載しますが、審議員が特定できないように委員の名を伏せています。また、発言の内容についても、審議員が特定できる発言個所を■としていますことを予めご承知願います。

【意見・質疑応答】 ○：審議会委員 ●：事務局

- 事務局より「計画の策定にあたって」を説明。
- 事務局より「ごみ処理の現状」を説明。
- 配布資料にごみの排出量実績と言う項目があります。その中にその他の事業系ごみと言う記載がありますが、どのような物になるのでしょうか。
- 火災ごみや海岸漂着物などのごみとなります。平成25年度については海岸漂着物として700ト程度入ってきており、その他のごみ全般では約1,000ト程度となっています。
- 今回の審議会では、この計画をどのように変えたいのか事務局として案がありますか。例えば、ごみ処理費用が高くなっていると読み取れますが、その対策としてごみ袋の料金を値上げするなど具体的な提案があるのでしょうか。
- 3回目・4回目と進むにつれて審議内容が核心へ向かっていくこととなりますが、今一

番頭を痛めているのが生ごみの量が計画数値を大きく下回っており、啓発も再度行わなければならないと考えています。ごみ袋の値上げについては、まだ始まったばかりと言うこともあり現在検討はしていません。

- 資料を見ると稚内市の一日当たりのごみが他都市と比べて高い状況のようですが、何故なのでしょう。
- 原因が判らないため調査研究しなければならない大きな課題ではなかろうかと考えていますが、道内でごみの排出が多い街のうち、多くが港町となっていることから、ここに理由があるのではと考えられます。今年、環境主管者会議が苫小牧であるので、情報収集を行いたいと思っています。
- 配布資料の中で稚内市と同規模の留萌市を見るとリサイクル率が高い。(稚内市20.3% 留萌市37.3%) 留萌は50億円をかけてリサイクル施設を整備していると聞いています。稚内も人口が減少するなどしており、ますます一人当たりの負担が増えると言う事からも、ごみの埋立ということを見直しリサイクルのさらなる推進を行わなければならないのではないのでしょうか。
- 負担の話をするとうも留萌市も生ごみを回収していますが、かなりの赤字を計上しているという話を聞いています。留萌もリサイクルと言う点では進んでいます、ごみの受入体制と言う点と分別すると言うことでは稚内市も分別はきちんとできている方ではないかと思えます。稚内市のリサイクル率は収集の方法などを変えると今後向上するかもしれません。生ごみが少ないのは収集日が一般ごみと一緒にすることと袋の料金が一緒という事もあるのではないかと思えます。
- 物事全般的に慣れと言うのが一番問題になると思います。ごみの分別に関しては、うるさいくらいに広報していくことが分別を良くし、排出量の削減につながる方法だと思われれます。
- いろいろとお話がありましたが、その他のごみや生ごみのリサイクル率を向上させるため、今年の9月の広報紙に生ごみの出し方を再度広報する予定です。リサイクル率を向上させるためには転勤族対策も必要です。現在住民票を稚内市に移した際に窓口でガイドブックの配布は行っています。
- 生ごみの話でいうと未だに出し方を知らないという方もいるようなので町内会等への

周知も必要ではないでしょうか。ごみについては最終的には市民のモラルの話になると思います。先ほど転勤族の話が出ていましたが、ほとんどが不動産会社を通じて入居していることから、不動産会社を通じてパンフレットを部屋に貼ってもらうなどしたやり方も良いのではないかと思います。

- 稚内市には廃棄物等減量化推進員と言う制度もあり、この推進員が啓発を行っている町内会もあり、また、ステーションに鍵をかけるなどして分別を徹底するための協力を頂いています。また、不動産会社にもパンフレットを一定数預け、入居者に配布するように対応しています。

○ これから審議内容が濃くなっていくという事ですが、今後に向けて前回計画からの変更点などを記載してもらおうと審議しやすく判りやすいと思います。稚内市では分別など不適正排出は地域ごとで集計しているのでしょうか。この集計結果をもとにいろいろな競わせ方と言うか現状を知ってもらうと言う点で活用できるのではないのでしょうか。

- 分別徹底という点であれば町内会や老人クラブ等では古着の回収等を出来ないかと考えているところもあるようです。拠点回収では時間が決められており、古着が大量に出ると言う事で、高齢者で困っている人が多いと聞いています。

- 生ごみの不足という話をするとバイオエネルギーセンターでの受入の種類が増える事は無いのでしょうか。草花なども大丈夫と言うことですが、家庭で草刈りをした草などのように生ごみに変わるものはないのでしょうか。

- まず、色々な話しがありましたが、警告の地域集計はしていますが、地域によってアパートの多い少ないで警告に差が出る場合があり、そのまま使用する事ができるかは検討が必要です。他に古着も頂きましたが、古着の集団回収はそうに進めば大変ありがたいと思います。また、ご意見の中にはすでに検討や検証はしているものもありますが、草に関しては機械に絡まるなどの問題があり対応が難しいという報告を受けています。

- 今後、計画として生ごみは人口減などでどんどん減っていく事になると予想されますが、そのことも考えていかなければならないと思います。

- 計画数値の見直しも課題の一つです。生ごみは人口減と一緒に比例していくと考えています。

- 生ごみやその他のごみなど、近隣町村との広域処理はどうなっているのでしょうか。
- 検討した経緯はあるのですが、豊富から留萌方向は西天北で組合を組み、また猿払方面は南宗谷でまとまりが出来ています。利尻・礼文島などと同じく稚内はそれらの枠に入っていないのが現状です。輸送費が問題となります。
- 最後に意見として、バイオエネルギーセンターについては計画が大雑把に計算しても許容量が大幅に余っているのではないかと思います。この余力を今後どうにかしていかなければならないと思います。

- 事務局より計画の基本的な方向性を説明。

- バイオエネルギーセンターに施設見学に行きましたが、生ごみから肥料を作っていると話がありました。どのくらいの量が市民に渡り、使われない場合はどうなるのでしょうか。
- 使われない場合は埋立することになります。5月6月などでは生ごみの残渣を肥料としてすべて市民に渡している状況ですのでその分埋立しなくても済む状況となっています。

- この肥料は匂いがきついように思います。土に散布しても大丈夫なのでしょうか。
- 生ごみを肥料化しているので多少の匂いは出ます。また、普通の肥料と同じ感覚で与えると言う事では、濃度がきつい肥料なので配布時に紙面と言葉で使用上の注意点を伝えています。循環型社会の構築と言う事では、生ごみを肥料にして循環すると言うところが一番重要なところだと考えています。

- 他の街の生ごみ処理施設では堆肥や肥料も配布出来ず貯めるに貯めているという話も聞いています。循環型社会の構築に向けてでは肥料やごみに限らずバランスよく処理していかなければならないと思います。
- 収集することも循環することも大事ですが、集める方も出す人もどちらのことも考えないならないと思います。
- リデュース・リユース・リサイクルと言う3Rで言うとリユース（再使用）する窓口などがどこかにあればごみも減ってくるのではないのでしょうか。
- 新聞社にごみ排出を記事にしてもらうなどの対応もあっていいと思います。

- 稚内市では一般ごみ以外のペットボトル・缶や古紙などは適正に出されていると思います。
- 今後の計画のための複数のご意見がありましたが、適正な排出を確認するという話がありました。生ごみの問題で話をすると、袋の色を若干薄くして不適正な物を見分けられるようにと考えています。その他の事業系ごみの中にも、内陸部の都市では発生しない漂着海藻などもあるため、今後も稚内の地域性を考慮して対策を考えていかなければならないと考えています。

- 最後に質問となりますが、大型ゴミと言うのは、稚内では多いのでしょうか。
- 年々増えています。平成25年度は消費税の駆け込みもあり増加しているのが実情です。

その他

- 次回の日程を事務局より説明し終了。